

農業経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 大久保 武

◆学習・教育目標

1. 大学院マスターコースでの研究方法と論文執筆の習得をめざす。
2. 現代(日本)の農業・食料問題を世界資本主義のなかにいかに位置づけ、どのように認識・理解するかを検討する。

取り扱う領域(キーワードで記載)

学術書・論文の読み方	学術論文の書き方	地域政策	農村の変容
日本の農業政策	経済のグローバル化	農業の基層構造	今日の農業問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	講義をするにあたって	1. 講義の受講するにあたって、2. 学術書の読書方法、3. アカデミック・ライティングの方法(論文の書き方)、4. 学術情報や知識の収集の仕方	本講義の狙いは、受講する大学院生自身が理論と実証そして分析の方法等を学ぶ。 その過程で、自らの研究テーマと論文作成能力を発見し、彫琢しうよう、教員と学生相互が協力しながら学習にあたる。 準備すべき事項は次の2点が重要である。 ①事前に指定されたテキスト・文献を読んでおくこと。 ②レジュメ担当者は、事前に準備を進めておくこと。
2	大学院マスターコースにおける学術研究の方法と技術の取得(1~4週)	※ 指定された著書や論文を輪読することで、資本のグローバルな趨勢のなかで、食料(農業)をどう認識したらよいか、本質的な理解を深め検討する。	
3	[後学期]世界的規模のなかでの農業・食料問題の生産・消費体制の歴史的動態を学ぶ		
4	資本主義の農業・食料(1)	5. 資本主義の農業問題	
5	資本主義の農業・食料(2)	6. 農民問題と農業政策の登場	
6	資本主義の農業・食料(3)	7. 戦後改革期の農業問題	
7	資本主義の農業・食料(4)	8. 経済復興期の農業政策	
8	グローバル化と農業(1)	9. 1980年代後半/経済構造調整期	
9	グローバル化と農業(2)	10. 1990年代/ポスト冷戦グローバル化期	
10	グローバル化と農業(3)	11. 農業基本法から新基本法への変化	
11	グローバル化と農業(4)	12. 2000年以降/構造改革と政権交代	
12	世界と日本の食料(1)	13. 世界の食料問題	
13	世界と日本の食料(2)	14. 日本の食料問題	
14	総括	15. 後学期の総括と問題点を議論する	

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

- ※『農業・食料問題入門』/田代洋一著/大月書店(2012年)
- ※『「農」を論ず』/梶井功編著/農林統計協会(2011年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

- ※『食と農の政治経済学—国際フードレジュームと階級のダイナミクス』/桜井書店(2012年)
- ※『グローバル化と世界の農業』/中野一新・岡田知弘/大月書店(2007年)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

課題に対する論述のレポート提出(70点)/レジュメ作成などに対する課題と評価(30点)

◆その他受講上の注意事項

与えられたテーマや課題に対して、積極的に取り組む熱意のある院生を望む。
 自主的に論文作成の課題に取り組み、自らの理論と実証に関する方法論を確立できるよう授業に臨むこと。